マンスリーサポーターを募集しています

1人ひとりの心に寄り添い、1人ひとりの「好き」を伸ばす

QRコードより、ご寄付いただけます。

みなさまと一緒に、こどもたちの成長を見守り続けていきたいです。

応援をよろしくお願いいたします。

HUG for ALLの歴史

HUG for ALLの歴史を動画にまとめました。
シェアも大歓迎です！

ぜひご覧ください。

こちらからご覧いただけます

名称　特定非営利活動法人HUG for ALL（ハグ・フォー・オール）
所在地　〒160-0022　東京都新宿区新宿5-11-30 新宿第五葉山ビル3F
設立日　2017年12月6日

代表理事　村上 綾野
副代表理事　外崎 恵子
理事　森井 俊秀
理事　小畠 瑞代
監事　坂上 和之
アドバイザー　米倉 誠一郎
アドバイザー　宮地 勘司

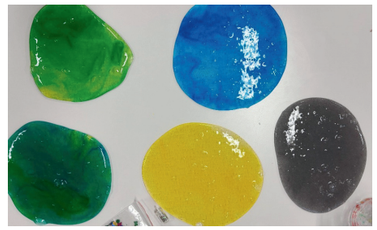
メールアドレス info@hugforall.org

HP　Facebook　Note

ぜひ、SNS・noteなどもフォローいただけると嬉しいです。

発行：2026年8月

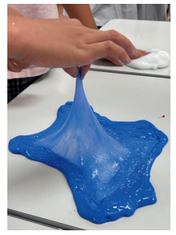
すべてのこどもたちに
「安心できる居場所」と
「生きる力」を



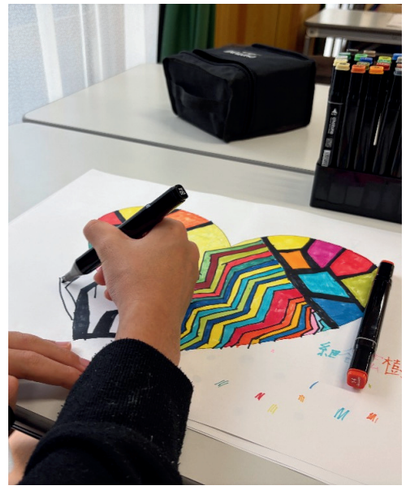






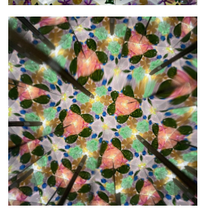


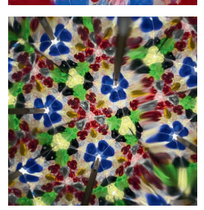


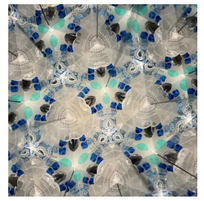


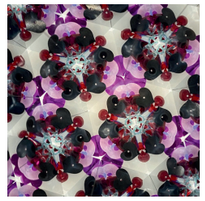












＜目次＞

HUG for ALLの活動内容　1
HUG for ALLのコミュニティ　3
新ビジョン・ミッションのもとでの
HUG for ALLの価値創造　5
2025年度を振り返って
～代表 村上綾野からのメッセージ～　9
財務諸表　10
団体情報　11

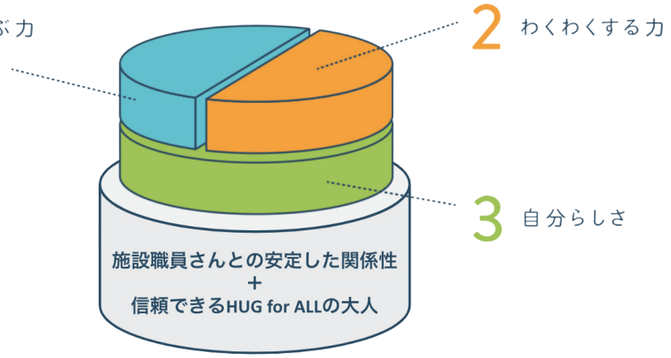
2025年度 HUG for ALL 活動報告書

HUG for ALLの活動内容

HUG for ALLでは、児童養護施設で暮らすこどもたちの「生きる力」を育むための、対話型・体験型の活動を、社会人ボランティアと共に実施しています。「安心できる居場所」というのは「心の居場所」のこと。また、これからの社会を生きていくために必要な力を「生きる力」と定義しています。

生きる力

安心できる居場所



施設ごとの実施プログラム

幼児〜小学生対象





まなびクエスト

対話を通して
学びに向き合う力を育む
（月1回×約1時間）

あそびクエスト

毎月多様なコンテンツで
子どものスキやトクイを発見する
（月1回×1.5時間）

中高生〜25歳くらいまで



はたちクエスト

自分や社会のことを知り
大人と共に未来に備える
（月1回×1.5時間）

	幼児	小学生	中学生	高校生	退所後25歳まで
プログラム	**まなびクエスト・あそびクエスト**		**はたちクエスト**		
1施設目 （八王子市）	対象外	**オンライン 対面で 月1回実施 （土曜AM）**	**オンライン・対面で 月1回実施 （土曜PM）**		**2024年4月 開始**
2施設目 （清瀬市）	**対面で 月1回実施 （日曜PM）**		**対面で 月1回実施 （日曜PM）**	今後実施予定	未定

活動を支える“クエストフレンド”

こどもたちの「クエストプログラム」のパートナーとしてかかわるボランティアを「クエストフレンド」と呼びます。**1人のこどもに対して原則2名のクエストフレンド**がつき、継続的に関わることで信頼関係を育んでいきます。

施設でくらすこどもたちの活動

八王子

小学生　16名
- まなびクエスト 対面　：5回
  オンライン：5回
- あそびクエスト 対面　：3回
- 遠足　：1回
- 振り返り＆ランチ会　：1回

コラボ実績：
- 敬天愛人さま

中高生　12名
- はたちクエスト 対面　：5回
  オンライン：5回
- 社会科見学　：1回
- 振り返り＆ランチ会　：1回

コラボ実績：
- 合同会社RUN AIさま
- 「チームわくいき」さま
- 株式会社多慶屋さま
- Bistro GRASSOさま

Members' Message



すべてのこどもたちに「安心できる居場所」と「生きる力」をというHUG forALLの理念に強く共感して活動に参加。こどもは社会の宝であり、人生をずーっと信じて見守る大人が1人でもいたら、自分の未来を信じて生きていける。月1回会うこどもの成長は目覚ましく、優しさ暖かさを感じる私の幸せな時間となっています。（ひな）













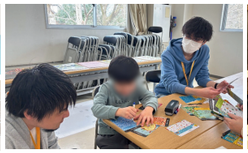
清瀬

小学生　11名
- まなびクエスト 対面　：11回
- あそびクエスト 対面　：11回

中高生　6名
- はたちクエスト 対面　：11回











施設を退所したこどもたちの活動

八王子



退所者　5名

- チーム活動　：原則毎月
- 全体イベント　：4月 退所お祝い会
  ：8月 夏のイベント
  ：12月 忘年会イベント
- HUGスナック　：毎月１回実施

Members' Message



高校卒業後は、新生活スタートのチャレンジが始まります。時に小さな失敗もあるけど、それも経験とクエストフレンドは見守り、相談に乗ったりしています。月に一度は会って食事しながら学校生活のことや就職先での様子を聞く時間は、クエストフレンドにとっても楽しみな時間です。
これからも成長を近くで見守り、応援していきたいです。
（ふーちゃん）

HUG for ALLのコミュニティ

thank you

協力企業さまとのコラボクエスト

年代に合わせた社会とのかかわり



2025年度は、八王子市の児童養護施設で、さまざまな企業・団体のみなさまにこどもたちとの活動へご参加いただきました。
小学生の活動には、活動開始当初から私たちを応援し続けてくださっている格闘道家の「敬天愛人」のみなさまが、数年ぶりにこどもたちに会いに来てくださいました。寒さの厳しい時期でしたが、こどもたちもクエストフレンドも、外で思い切り体を動かして遊ぶことができました。
中高生向けの「はたちクエスト」では、RUN AIの中原さま、チームわくいきのみなさまにプログラムへご協力いただきました。中原さまによるプログラムは、一人ひとりの特徴や特性を言葉で伝え、AIに似顔絵を描いてもらうというもの。思いのほか似ている絵もあれば、まったく似ていない絵もあり、大いに盛り上がりました。チームわくいきのみなさまからは、現在制作中の「価値観ゲーム」のトライアル実施をご依頼いただき、みんなでカードゲームを楽しみました。また社会科見学では、株式会社多慶屋さま、Bistro GRASSOさまのご協力により、上野～御徒町を一日かけて楽しむことができました。
多くのみなさまのお力添えのおかげで、こどもたちに豊かな体験の機会を届けることができました。



新メンバーとともにキックオフ

はじまるよ会



児童養護施設で暮らすこどもたちに「安心できる居場所」と「生きる力」を届けたい。
そんな私たちの願いを改めてみんなで分かち合う、あたたかな時間となりました。
クイズを楽しみながら社会的養護について学び直したり、新しく仲間になったメンバーを紹介したり、全員で集まる機会でしかできない時間を過ごすことができました。
2025年度は、こどもたちの「伴走者」であるクエストフレンドとしての関わり方をより深めることに力を入れました。「こども真ん中、大人も真ん中」という想いを大切に、一人ひとりの可能性を信じて、じっくりと丁寧な関わりを積み重ねていく。そんな共通認識ができたと感じています。
また、こどもたちの安心・安全を守るための大切な約束についても、施設の方々と同じ歩幅で歩めるよう対話を重ねました。多様な大人が手を取り合い、こどもたちの未来にそっと寄り添い続ける。そんな優しさのあふれる一年のスタートを切ることができました。

HUGギャザリング



毎年開催する、HUGギャザリング。
クエストフレンドやスタッフ、団体内の仲間が集まり、活動の価値を確かめる日。
HUG for ALLとHUG for ALLに関わる自分についてゆっくり考える場になっています。
今年も34人のメンバーが集まりました。

HUG for ALLの日

詳細はHUGノートでも公開中！
ぜひお読みください ＞＞

クエストフレンドだけでなく、寄付者・関係者のみなさまとともに過ごす一日。
サイボウズ株式会社さまのオフィスをお借りし、40名のみなさまと開催しました。料理を担当してくださったのは、ご自身も児童養護施設のご出身で、施設で暮らすこどもたちに向けた「大人博物館」という活動をされている林めるりさんです。

Members' Message



こどもとの活動はもちろん、大人同士の集まりもとても温かい雰囲気に包まれています。さまざまな考えや経験を持つ人たちと、こどもとの関わり方や活動への想いをじっくり話し合える機会があることで、いつも新しい発見があり、お互いの信頼も深まっているなと感じています。（ゆきたん）

＜2025年度 インナーコミュニティ イベント＞
・ギャザリング（10月）　・作戦会議：8回　・活動研修：1回（4月｜各施設・クエストごと）　・はじまるよ会（4月）　・新メンバー振り返り会（8月）　・スタッフ向け勉強会など：11回＋コーチング6回

クエストフレンド

133 名

こどものパートナーである、クエストフレンド。対面での活動が増え、同じこどもの担当さん以外とも、顔を合わせることが増えた1年でした。
今年度は、活動後の振り返りにプラスして、たっぷり時間をとってこどもたちのことを考える「作戦会議」を実施しました。



スタッフ

23 名

こどもたちとの現場の活動に加え、団体の運営や基盤づくりも担っています。専従スタッフはおらず、全員が他に仕事を持っていたり、学校に通っていたりします。
スタッフ一人ひとりが「なぜここにいるのか」を語り合う場としてteamSS（team Seed Subsource）を立ち上げ、それぞれのエネルギー源を大切にする組織づくりを進めています。

2025年度寄付者

寄付総額： 2,584,732円

63 名

うち、継続寄付者43名

【企業・団体寄付】
株式会社大成様
株式会社ウッドワーク様
一般財団法人UACJ軽やか財団様
敬天愛人様

4月
- 小学生担当専門研修（高尾）
- 中高生担当専門研修（高尾）
- 小学生担当専門研修（清瀬）
- はじまるよ会

6月
- 作戦会議（高尾）
- 作戦会議（清瀬）
- teamSS キックオフミーティング

7月
- teamSS 読書会（3回）
- 作戦会議（高尾・はたち）
- こども向け事業を考える会

8月
- 新メンバー振り返り会
- teamSS ソース原理研修＆ダイアローグ

9月
- teamSS 合宿
- teamSS RINGOプロセス研修
- teamSS 読書会（3回）

10月
- teamSS ダイアローグ
- ギャザリング

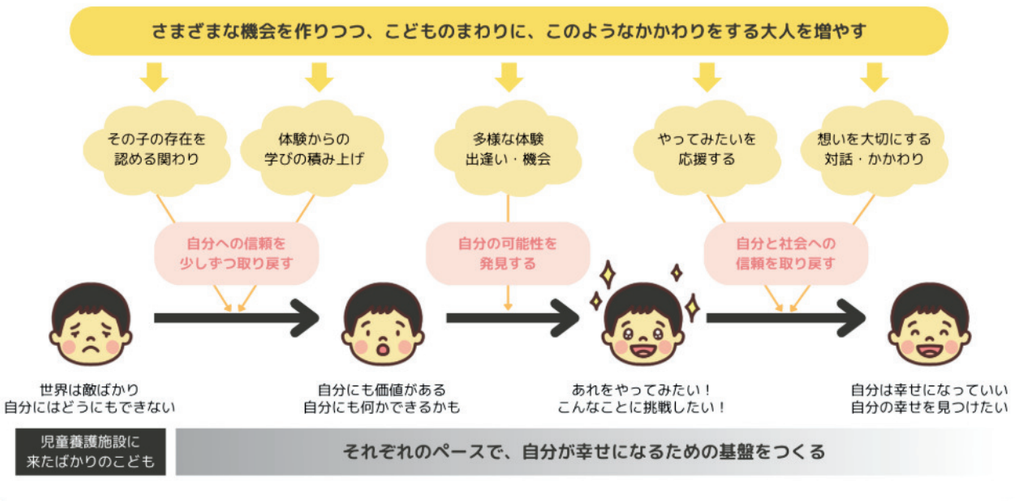
12月
- 作戦会議（高尾）

1月
- 作戦会議（清瀬）
- 作戦会議（高尾・はたち）

2月
- teamSS ダイアローグ
- HUG for ALLの日

新ビジョン・ミッションのもとでの HUG for ALLの価値創造

ビジョンストーリー



ミッション

「自分への信頼を育み、社会への信頼を育む」

いろんな自分と出会いながら、たくさんの可能性を見つけていく。
人とのかかわりの中で、他者への信頼を育み、自分が社会の中でどう生きるのかを考える。

自分らしく、自分らしいペースで、
自分と、周りの人たちと、そして社会とのつながり方を見つけていく。
私たちは、その機会をつくり続けながら、ともに歩み続けます。

バリュー

こども真ん中、大人も真ん中
私たちは、こども一人ひとりの幸せを願って、活動していく。
大人もそれぞれの幸せを願い、自分自身を大切にすることを尊重し、支え合おう。

一人ひとりの可能性を信じよう
人はだれもが伸びたい方向にぐんぐん伸びる力をもっている。
そのエネルギーを思いっきり発揮できるように、そのまんまを受け止めよう。

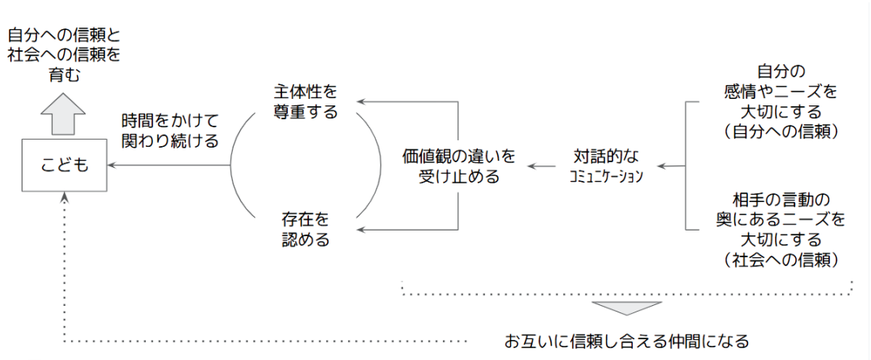
経験のすべてが学びになる
くらし・あそび・対話、日々経験したことのすべてから人は学んでいく。
一人ひとり、一瞬一瞬、起きていることにセンサーを光らせよう。

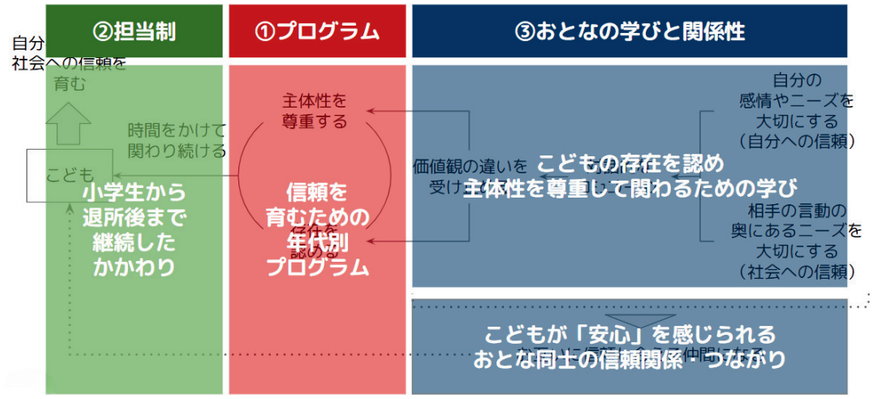
じっくり、ひとつずつ
小さなひとつひとつが私たちをつくっていく。
丁寧に積み重ねていく先に起こることを信じて、ともに時間をつむごう。

「知る」ことからはじめよう
人はだれもが肯定されたいと願っている。
正しさはそっと横において、相手の考えや背景を知ることに心を寄せよう。

価値創造モデル

HUG for ALLが社会に価値を生み出すしくみを言語化したのが「価値創造モデル」です。
私たちの活動を通して、こどもたち自身が自分への信頼と社会への信頼を育んでいく。それを実現するために、こどもたちの主体性を尊重し、存在を認めるかかわりを、時間をかけて積み重ねていきます。そうしたかかわりを支えているのが、価値観の違いを受け止める対話的なコミュニケーションです。そして対話を重ねていくには、私たち自身もまた、自分への信頼と社会への信頼を育んでいく必要があります。この循環こそが、私たちの価値創造のしくみです。





①プログラム

こどもの存在を認め、
主体性を尊重する活動を通して
「やってみたい」の挑戦の幅を広げ、
「つながり」を広げ、深めながら
自分への信頼を育み、社会への信頼を育む。

年代別のプログラム
（場の設計）

- 「やってみたい」の探究と発見
- 「つながり」の広がり・深まり

②担当制

小学生～退所後まで**継続的に月1回**のペースで
こどもと関係性を育み、
こどもの存在を認め、
主体性を尊重するかかわりを通して、
自分への信頼を育み、社会への信頼を育む。

1人ひとりと向き合う担当制
（かかわり方の設計）

- こどもの存在を認める
- こどもの主体性を尊重する

継続的な活動

③おとなの学びと関係性

こどもの存在を認め
主体性を尊重するために
必要なこと
▼
・異なる価値観を受け止める
・対話的なコミュニケーション
▼
おとな同士で学び合い、
お互いに信頼関係を深めて
つながりをつくっていく
▼
私たちおとな自身の
自分への信頼を育み
社会への信頼を育む

自分への信頼を育み、社会への信頼を育む

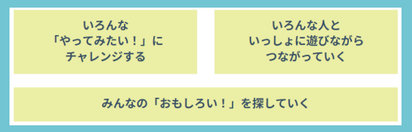
プログラム

小学生	中高生	退所後25歳まで
おもしろラボ 対面×月1回 午前のみと終日が混在 （原則土曜）	**じぶんラボ** 対面×月1回 午後のみと終日半々 （原則土曜）	**くらしラボ** 月1回のチーム会 月1回のHUGスナック 年3回の全体会
「やりたい」の種を手渡す	「やりたい」の芽を育てる	「やりたい」を実現していく

※「くらしラボ」はこれまでの「はたちクエスト退所編」を踏襲。

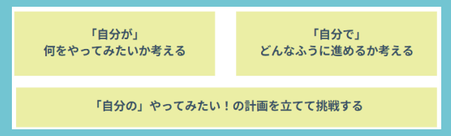
おもしろラボ とは

1年を通して、こどもの「やってみたい」の幅を広げ、「つながり」を深めたり広げたりするプログラムです。また、6年間を通して、こども自身が成長を実感できるようにします。



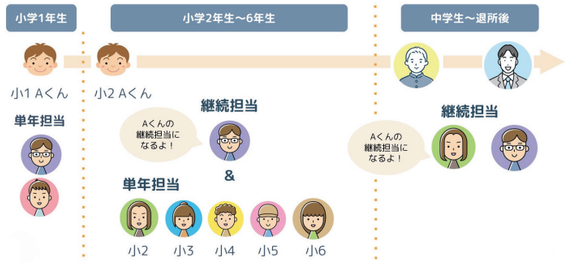
じぶんラボ とは

中1～高3の６年間を通して、こどもたちが自分の「やってみたい」に向き合い、その実現を応援され続けるプログラム。こども自身が主体性を発揮する機会をつくることを大切にします。



担当制

これまでは、小学生のころから退所後まで、ずっと同じ担当がこどもを見守り続けるしくみにしていました。
しかし、固定の大人とのかかわりだけでは、その大人が活動を続けられなくなったときに、こどもが頼れる人を失ってしまいます。また、「一緒に遊んだことがある大人」が多くいること自体も、こどもを支える力になります。こうした点を踏まえ、担当制の在り方を見直しました。
小学生の間は、6年間を通してかかわる「継続担当」1人を軸に、1年ごとに交代する「単年担当」1人が加わります。こどもは6年間で、7人以上の大人とかかわることになります。中学生以降は、その中の2人以上が「継続担当」として、引き続きこどもとかかわり続けます。もし「継続担当」が活動を続けられなくなった場合は、小学生のころに担当だった大人のいずれかが、代わって「継続担当」を引き継ぎます。
※こども担当ボランティアの名称も2026年度から「HUGフレンド」に変わります



施設職員さんからのメッセージ（高尾）

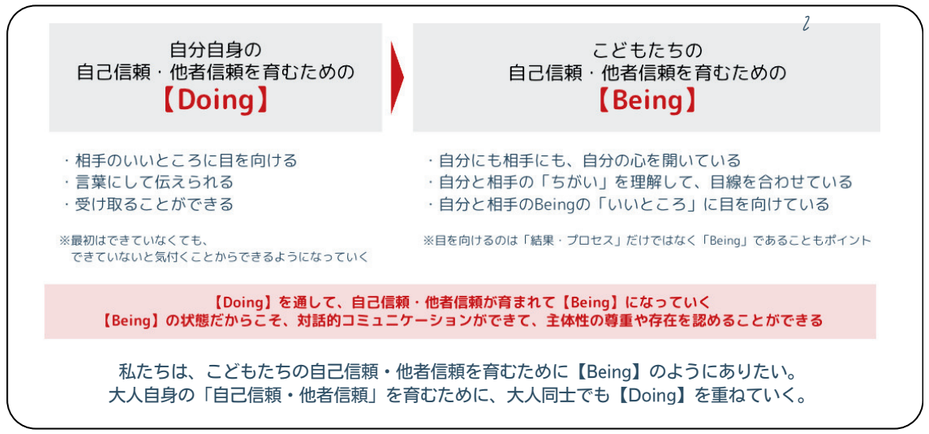
ケアリーバーのサポートをHUG for ALLと一緒に行う中で、小学生の頃から関係が続いていることの大きさを改めて感じています。
今年度からインケア児童に提供いただいている新しいプログラムでは、こどもの主体性がより大切にされていて、その子らしさを発揮しながら、自分の「好き」や「得意」に向かっていく姿がこれからますます見られるのが楽しみです。
これらの活動を通じて日常生活の場面で自身の気持ちを言語化することや他者の気持ちを推し量れる力が向上することを期待しております。
一人ひとりの個性や発達、状況に合わせて関わり、細やかに情報交換しながら一緒に支えてもらえることもありがたいです。
冒頭で触れましたが、アフターケアに移行した後も施設と二人三脚で伴走してもらえることを心強く感じています。

施設職員さんからのメッセージ（清瀬）

HUG for ALLには、継続的にこどもたちと関係を築き、一人ひとりに丁寧に向き合ってもらっていることに、とても大きな価値を感じています。
施設では、単発で来られる外部の方との活動だと、不安を感じて参加できないこどももいます。でも、HUG for ALLの活動なら担当制で見通しがたちやすい、同じ人が繰り返し来てくれる、知っている人たちだから大丈夫という安心感を持って参加でき、そうしたこどもたちもさまざまな経験に触れることができています。
自分にしっかり関心を向けてもらえる時間も、こどもにとって大切だと感じます。
中学生になって一度活動から離れていたこどもが、また参加するようになり、楽しみにしている姿もあります。
これからも、退所後まで続く関係を一緒につくっていただけたらと思っています。

信頼を育むダイアローグ

「信頼を育むダイアローグ」は、2024年度の組織デザインプロジェクトの中で生まれました。
ミッションや価値創造モデルが定まっていく中で浮かんできた、「これを1人ひとりが体現していくためにはどうすればいいのか」という問いに対して、佐宗邦威さまに伴走していただきながらたどり着いたのが、「信頼を育むダイアローグ」です。



「信頼を育む“Being”のようなあり方を自分自身はしていたか」を振り返り、お互いにシェアして、
認め合い、フィードバックを贈りあう対話的コミュニケーションの機会として信頼を育むダイアローグを位置づけました。

ボランティア採用

こどもと関わるおとなの存在・在り方が大切である、そうたどり着いたHUG for ALLでは、信頼を育むための採用をスタートしました。団体が人を選ぶ場ではなく、応募される方と私たちが、お互いの存在を確かめ合う時間にしています。

team Seed Subsource（チームシードサブソース）



Peter Koenig(ピーター・カーニック)が提唱した、人のあらゆる活動において、「特別な役割を担う1人がいる」という考え方。この1人のことを「Source（ソース）」と呼んでいます。
HUG for ALLは、代表の村上（あやや）がすべての活動の原点となるソース（グローバルソース）です。
一方で、HUG for ALLの中で生まれる様々な活動・取り組みには、それぞれのソースが存在します。
「HUG for ALLのなかで、こんなことをやってみたい」という思いを持ったメンバーが集まって、team Seed Subsource（サブソースの種/TeamSS）を結成しました。

『ソース原理［入門＋探求ガイド］』は、全６回の読書会を開催して、みんなで読み合いながら対話をしました。団体のコアとなる仲間の中で、共通理解を深めていくために、読書会が重要な過程となりました。

ー「こどものころの自分を発揮したら、どんなことが起こりそう？」

6月には、TeamSSのメンバー全員で1泊2日の合宿を行いました。テーマは、「こどもになる」。
ソース原理では、"身体の反応を大切に、自分と向き合う"ということを大事にします。一方で、私たちは、大人になるにつれて"頭を使う"ことが増えていきます。そして、過去や未来を含めた時間軸で、物事を判断していくようになります。
だからこそ、"素直に自分と向き合っている"こどものような感覚を取り戻すために、このテーマを設定しました。
自然の中で、心地よいと感じるもの・場所を探すワークでは、普段の活動の中では見れない姿や興味を感じることができました。

さらに2回の「TeamSSダイアローグ」を開催。サブソースとしてHUG for ALLでやりたいことと自分自身をつなげ、重ねていく機会を丁寧につくりました。

また、TeamSSのメンバーそれぞれに、1人あたり6回のコーチングを実施しました。
TeamSSへのコーチを担ってくださる方をSNSで募集したところ、普段コーチングのお仕事をされているかたから多数ご連絡をいただき、7名の方にコーチをお願いしました。
中には、担当コーチといっしょにランチに行くまで仲よくなったメンバーも。1人ひとりが内なる自分につながる、大切な時間となりました。


teamSSのメンバー



2025年度を振り返って
～ 代表 村上綾野からのメッセージ ～

いつもHUG for ALLの活動を応援いただき、ありがとうございます。

2025年度、各施設ではそれぞれの活動を継続し、こどもたちとの関係性も、活動内容も、一歩前に進めることができたように思います。八王子市の施設ではコロナの影響からも完全に脱却。対面での活動が増えて、中高生の社会科見学の継続だけでなく、小学生とも初の遠足に出かけることができました。さまざまなかかわりを通して、こどもたちとクエストフレンドたちとの絆の深まりを感じています。また、清瀬市の施設では、参加するこどもが増える中でも、一人ひとりが安心して自由に活動する姿が見られました。様々なプログラムを実施する中で、こどもたちの豊かな個性とそれぞれの興味関心を発見していくことを、大切にしながら活動しています。

また、一方で、2025年度は「この先の10年」に向けた準備を本格化した年でもありました。「自分への信頼を育み、社会への信頼を育む」という新たなミッションから考えたときに、私たちはこどもたちとどのような活動の場を持ち、どのようなかかわりをしていくのだろうか。それを実現するしくみはどのようなものだろうか。そして、そのような活動を支える組織は？事業基盤は？コアになる仲間は何を大切にするのだろうか。そんな問いに向き合い続けた1年でもあります。

ソース原理の中には「誰もが自分の人生のグローバルソースである」という軸となる考え方があります。HUG for ALLの活動の土台には「こどもたちにが自分の人生のグローバルソースであることを取り戻す」という願いのようなものがあります。それは、こどもたちだけではなく、私たちおとなにとっても、とても大事なことだと感じています。

「自分への信頼を育み、社会への信頼を育む。」HUG for ALLはこの新たなミッションのもと、また新たな一歩を踏み出していきます。引き続き、応援いただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

HUG for ALL　代表理事
村上 綾野（むらかみ・あや）

京都府出身。神戸大学発達科学部卒業。二度の転職を経て2004年に株式会社ベネッセコーポレーションに入社し、教育事業や新規事業開発を担当。2012年頃に始めたボランティアがきっかけで2016年にHUG for ALLを立ち上げ、現在に至る。



【編集後記】

活動報告書担当のしぇりーです。HUG for ALLの活動報告書、お楽しみいただけましたでしょうか。
社会的養護は、様々な理由から表に出ることが少ない分野です。しかし、活動を通じて、多くの方が心を寄せ、こどもたちを見守ってくださることを折りに触れて感じています。そしてなにより、こどもたちは日々、成長していることを実感します。
そんな感謝と日常を、お届けできていたら嬉しいです。
こどもたちが、おとなたちも、すこやかに、しなやかに、しあわせに、生きられる社会があり続けますように。

財務諸表

活動計算書
2025年4月1日～2026年3月31日

単位：円

	金額		
Ⅰ 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	192,000		
賛助会員受取会費	1,146,520	1,338,520	
2. 受取寄附金			
受取寄附金	2,442,819	2,442,819	
3. 受取助成金等			
受取民間助成金	2,388,200	2,388,200	
4. その他収益			
受取利息	12,888		
雑収益	60,444	73,332	
経常収益計			**6,242,871**
Ⅱ 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
役員報酬	1,200,000		
人件費計	**1,200,000**		
(2)その他経費			
業務委託費	1,800,000		
印刷製本費	35,515		
会議費	1,148,331		
交際費	10,130		
旅費交通費	179,402		
通信運搬費	13,380		
消耗品費	1,004,941		
保険料	30,100		
研修費	575,972		
支払手数料	294,250		
その他経費計	**5,092,021**		
事業費計		**6,292,021**	
2. 管理費			
(1)人件費			
人件費計	**0**		
(2)その他経費			
印刷製本費	16,808		
会議費	5,690		
旅費交通費	1,890		
通信運搬費	114,524		
消耗品費	5,513		
賃借料	18,480		
諸会費	15,000		
支払手数料	88,799		
広告宣伝費	39,209		
その他経費計	**305,913**		
管理費計		**305,913**	
経常費用計			**6,597,934**
当期正味財産増減額			**△ 355,063**
前期繰越正味財産額			**8,412,608**
次期繰越正味財産額			**8,057,545**



貸借対照表
2026年3月31日現在

単位：円

	金額		
Ⅰ 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	7,785,521		
未収金	1,082,491		
前払費用	84,480		
仮払金	2,409		
流動資産合計		**8,954,901**	
2. 固定資産			
(1)有形固定資産			
工具器具備品	23		
有形固定資産計	**23**		
固定資産合計		**23**	
資産合計			**8,954,924**
Ⅱ 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	833,779		
前受金	60,000		
預り金	3,600		
流動負債合計		**897,379**	
2. 固定負債			
固定負債合計		**0**	
負債合計			**897,379**
Ⅲ 正味財産の部			
前期繰越正味財産		8,412,608	
当期正味財産増減額		△ 355,063	
正味財産合計			**8,057,545**
負債及び正味財産合計			**8,954,924**

2025年度 受取助成金

4 件

- 一般社団法人 日本児童養護施設財団 様（50,000円）
- 大塚商会ハートフル基金 様（500,000円）
- 公益財団法人 葉田財団 様（998,200 円）
- 公益財団法人 CBGMこども財団 様（840,000 円）